

教科	科目	単位数	学年・クラス (類型)
公民	現代社会	2	3年生Ⅱ型理系

1 使用教材

使用教科書	高等学校 改訂版 現代社会 (第一学習社)
副教材等	2019 現代社会ワークブック

2 学習の目標

<p>人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
思考・判断		現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	
資料活用の技能・表現		現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	
知識・理解		現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断、資料活用の技能・表現、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価する。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績、2 学期成績、3 学期成績の平均		

4 学習にあたっての助言

- 1 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- 2 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、課題について主体的に考察し、公正な判断力と良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1編 私たちの生きる社会	<ul style="list-style-type: none"> • 地球環境問題について、よりよい社会を築くために解決しなければならない問題として考える。 • 資源の有限性について理解を深め、石油に代わる資源には何があるか、資源を有効に利用するためにどのようにしなければならないかを考える。 • 科学技術の発達は、社会や生活をどのように変えてきたかを考え、理解する。 • 高度情報社会とは何かを理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について考える。 • 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、青年期の心理の特徴について理解し、一人前の人間として自立するためには何をしたらよいかを考える。 	中間
	5	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 ○中間考査		
	6	第1章 現代に生きる青年 第2章 個人の尊厳と法の支配		期末
	7	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ○期末考査		
2 学期	8	第4章 国際政治の動向と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> • 日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 • 経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解する。 • 貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考える。 • 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 	中間
	9			
	10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ○中間考査		
	11	第6章 国際経済の動向と日本の役割		期末
12	第7章 現代に生きる倫理 ○期末考査			
3 学期	1	第3編 ともに生きる社会をめざして	教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、1枚の給与明細から税について考察したり、原子力発電所の再稼働をめぐる問題を通してエネルギー問題について考察したり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。	学年末

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
公民	政治・経済	3	2年生Ⅱ型文系

1 使用教材

使用教科書	高等学校 改定版 政治・経済 (第一学習社)
副教材等	2019 政治・経済ワークブック

2 学習の目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。 2 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を身に付ける。 3 良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		社会的事象に対する関心を高め、特質などを意欲的に追求し、在り方などについて客観的に考察しようとしている。	
思考・判断・表現		社会的事象から課題を見だし、特質などを多面的・多角的に考察し、事象の在り方などについて社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	
資料活用の技能		社会的事象に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果などについて適切な方法で評伝している。	
知識・理解		知識・概念などについて理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲、知識・理解を、課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価する。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	考査※1：平常点※2 = 7 : 3 ※1内訳：(中間考査+期末考査) ÷ 2 × 0.7 ※2内訳：出席状況、学習意欲、ノート、課題
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	考査※1：平常点※2 = 7 : 3 ※1内訳：(中間考査+期末考査) ÷ 2 × 0.7 ※2内訳：出席状況、学習意欲、ノート、課題
	3 学期	学年末考査 70% + 平常点※1 30% ※2内訳：出席状況、学習意欲、ノート、課題	
学年	1 学期成績、2 学期成績、3 学期成績の平均 (各学期の実施時数により傾斜配点)		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容について、ただ単に知識として記憶するのではなく、自分自身の生き方に結び付けて考えることが大切である。 ・ 様々な情報のソースから流れる膨大な情報を精査しながら、日常生活の中で、現代社会が抱える課題や問題点を明らかにし、それらを解決していく社会人としての資質を身に付ける。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲		
1 学期	4	現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本 国憲法 1 政治と法の機能	民主政治の基本原則、民主政治の歴史、世界 の政治制度などについての理解を深める。 日本国憲法の基本的性格、人権保障、平和主義 などについての理解を深める。	中間		
	5	2 人権保障と法の支配 ～8 裁判所機能と人権保障 ○中間考查				
	6	9 地方自治制度と住民権利 ～11 世論と現代政治の課題 第2章 現代の国際政治と日本			日本の政治機構を理解し、民主政治における 政治参加や世論形成の意義や重要性を考える。 国際法、国際連合、国際政治の現状などを理解 し、日本が今後、国際社会において果たすべき 責任について考える。	期末
	7	1 国際政治の動向 ～3 国際連合の役割と国際協 力 4 安全保障と日本の防衛 ～6 国際平和と日本の役割 ○期末考查				
	8	現代の経済 第1章 経済社会の変容と経済のし くみ 1 資本主義経済の発展と社 会主義経済の変容 ～2 日本経済のあゆみ 9 中小企業問題 ～13 社会保障制度の充実 ○中間考查				
	10	11 第2章 国民経済と国際経済 1 国際経済のしくみと現状 ～2 環境保全と資源・エネ ルギー問題				
	2 学期	12	現代社会の諸課題 第1章 現代日本政治や経済の諸課題 ○期末考查	現代の日本が抱える課題を、政治と経済との 関連に留意しながら、様々な角度から考え、望 ましい解決の在り方を考える。	期末	
1		第2章 国際社会の政治や経済の諸 課題 ○学年末考查	現代日本や国際社会が抱える課題のうちいくつ かを取り上げて、自ら調査し、まとめる作業を 通して、望ましい解決の在り方について考える。	学年 末		
3 学期	2	○学年末考查				
	3					

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
公民	政治・経済	3	3年生 I 型

1 使用教材

使用教科書	高等学校 改訂版 政治・経済 (第一学習社)
副教材等	2019 政治・経済ワークブック (愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会公民部門)

2 学習の目標

<p>広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的な社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方について自覚を深めようとする。	
思考・判断		社会的事象から課題を見だし、特質などを多面的・多角的に考察し、事象の在り方などについて社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	
資料活用の技能・表現		社会的事象に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果などについて適切な方法で表現している。	
知識・理解		現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、思考・判断、資料活用の技能・表現、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価する。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績、2 学期成績、3 学期成績の平均		

4 学習にあたっての助言

<p>1 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。</p> <p>2 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、課題について主体的に考察し、公正な判断力と良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。</p>
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	現代の政治 第1章 民主政治の基本原則 と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③裁判と人権保障 ④憲法改正と人権保障 ⑤地方自治と住民の権利 ⑥世論と現代政治の課題 ⑦国際政治の動向と国際法 ⑧国際紛争・難民問題 ○中間考査	民主政治の基本原則、民主政治の歴史、世界の政治制度などについての理解を深める。 日本国憲法の基本的性格、人権保障、平和主義などについての理解を深める。	中間
	5	⑨地方自治制度と住民の権利 ⑩世論と現代政治の課題 ○中間考査	日本の政治機構を理解し、民主政治における政治参加や世論形成の意義や重要性を考える。	
	6	第2章 現代の国際政治と日本 ①国際政治の動向と国際法 ②国際紛争・難民問題 ○期末考査	国際法、国際連合、国際政治の現状などを理解し、日本が今後、国際社会において果たすべき責任について考える。	期末
	7	○期末考査		
2 学期	8	現代の経済 第1章 経済社会の変容と経済のしくみ ①資本主義経済の発展と社会主義経済の変容 ②日本経済のあゆみ ③中小企業問題 ④社会保障制度の充実 ○中間考査	経済社会の歴史、市場経済の仕組みと政府の役割についての理解を深める。	中間
	9	⑤資本主義経済の発展と社会主義経済の変容 ⑥日本経済のあゆみ ⑦中小企業問題 ⑧社会保障制度の充実 ○中間考査	経済の発達に伴う、経済構造の変化、中小企業問題、環境保全の課題、労働問題、社会保障の役割などについての理解を深める。	
	10	第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみと現状 ②国際経済の諸問題と日本の役割 ○期末考査	国際経済の仕組みと現状についての理解を深め、日本の果たすべき役割について考える。	期末
	11	第1章 現代日本の政治や経済の諸課題 ○期末考査	現代の日本が抱える課題を、政治と経済との関連に留意しながら、様々な角度から考え、望ましい解決の在り方を考える。	
12	○期末考査			
3 学期	1	第2章 国際社会の政治や経済の諸課題 ○学年末考査	現代日本や国際社会が抱える課題のうちいくつかを取り上げて、自ら調査し、まとめる作業を通して、望ましい解決の在り方について考える。	学年末

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
公民	倫理	2	2年生 I 型

1 使用教材

使用教科書	高等学校 倫理 (第一学習社)
副教材等	2019 倫理ワークブック (愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会公民部門編)

2 学習の目標

1 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
2 人格形成に努める実践的意欲を高め、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容		
関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、自己の確立に努める実践力を身に付け、人間にかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。		
思考・判断・表現	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		
資料活用の技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する資料をメディアを通して収集し、情報を主体的に選択して、これらを自己形成に役立つように活用している。		
知識・理解	青年期における自己形成などにかかわる基本的な事柄を、自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。		
評価方法	定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価する。		
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績、2 学期成績、3 学期成績の平均		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容について、自分自身の生き方に結び付けて考えるようにすることが大切である。 ・ 人間の存在や価値などについて、多面的・多角的に考察し、探究することが大切である。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1章 青年期の課題と自己形成	人間の特質について理解し、生きがいについて様々な視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身に付ける。	中間
	5	第2章 人間としての自覚 ① ギリシャの思想 ○中間考査	ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解する。	
	6	② キリスト教 ③ イスラーム ④ 仏教 ⑤ 中国の思想	哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手掛かりに、自分の生き方を考える。 世界で起きている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて考察する。	期末
	7	○期末考査		
2 学期	8	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ① 日本の風土と伝統	日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教がどのように伝えられ、変容したかを把握する。	中間
	9	② 外来思想の受容 ③ 町人意識のめざめと庶民思想 ④ 西洋思想との出会い	義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どのようなものかを理解する。	
	10	第4章 現代に生きる人間の倫理 ① 現代の特質と倫理的課題 ② 人間の尊厳 ○中間考査	生命・環境・家族・情報・国際化などに関する問題を概観し、私達が取り組むべき倫理的課題について考える。	期末
	11	③ 近代の科学革命と自然観 ④ 自由で平等な社会の実現 ⑤ 人間性の回復と主体性の確立 ⑥ 生命への畏敬と社会奉仕 ○期末考査	近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受けているのかを理解する。	
3 学期	1	第5章 現代の諸課題と倫理 ① 生命倫理と課題	現代社会が抱える課題のうちいくつかを取り上げて、自ら調査し、まとめる作業を通して、望ましい解決の在り方について考える。	学年末
	2	② 環境の問題と倫理課題 ③ 家族・地域社会と倫理課題		
	3	④ 情報社会と倫理課題 ⑤ 宗教・文化と倫理課題 ⑥ 国際平和と人類の福祉 ○学年末考査		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
公民	倫理	2	3年生Ⅱ型文系

1 使用教材

使用教科書	高等学校 倫理 (第一学習社)
副教材等	2019 倫理ワークブック (愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会公民部門編)

2 学習の目標

1 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
2 人格形成に努める実践的意欲を高め、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容		
関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、自己の確立に努める実践力を身に付け、人間にかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。		
思考・判断・表現	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		
資料活用の技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する資料をメディアを通して収集し、情報を主体的に選択して、これらを自己形成に役立つように活用している。		
知識・理解	青年期における自己形成などにかかわる基本的な事柄を、自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。		
評価方法	定期考査で、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解を、課題テスト・小テストなどで関心・意欲・態度、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度を評価する。		
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%・期末成績 50% (期末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%)
	3 学期	学年末考査 70%・ノート点 20%・平常点 10%	
学年	1 学期成績、2 学期成績、3 学期成績の平均		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容について、自分自身の生き方に結び付けて考えるようにすることが大切である。 ・ 人間の存在や価値などについて、多面的・多角的に考察し、探究することが大切である。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1章 青年期の課題と自己形成	人間の特質について理解し、生きがいについて様々な視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身に付ける。	中間
	5	第2章 人間としての自覚 ① ギリシャの思想 ○中間考査	ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解する。	
	6	② キリスト教 ③ イスラーム ④ 仏教 ⑤ 中国の思想	哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手掛かりに、自分の生き方を考える。 世界で起きている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて考察する。	期末
	7	○期末考査		
2 学期	8	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ① 日本の風土と伝統	日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教がどのように伝えられ、変容したかを把握する。	中間
	9	② 外来思想の受容 ③ 町人意識のめざめと庶民思想 ④ 西洋思想との出会い	義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どのようなものかを理解する。	
	10	第4章 現代に生きる人間の倫理 ① 現代の特質と倫理的課題 ② 人間の尊厳 ○中間考査	生命・環境・家族・情報・国際化などに関する問題を概観し、私達が取り組むべき倫理的課題について考える。	期末
	11	③ 近代の科学革命と自然観 ④ 自由で平等な社会の実現 ⑤ 人間性の回復と主体性の確立 ⑥ 生命への畏敬と社会奉仕 ○期末考査	近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受けているのかを理解する。	
3 学期	1	第5章 現代の諸課題と倫理 ① 生命倫理と課題	現代社会が抱える課題のうちいくつかを取り上げて、自ら調査し、まとめる作業を通して、望ましい解決の在り方について考える。	学年末
	2	② 環境の問題と倫理課題 ③ 家族・地域社会と倫理課題		
	3	④ 情報社会と倫理課題 ⑤ 宗教・文化と倫理課題 ⑥ 国際平和と人類の福祉 ○学年末考査		